

周波数の国際協調利用促進事業 令和5年度 終了評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
気象・防災プラットフォーム技術の国際協調利用促進	津波・海洋レーダーシステム	H30-R04	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で遅延した計画を吸収し、津波・海洋レーダーの有用性を相手国と共に確認した。また周辺国に対して津波・海洋レーダーの有用性をアピールもしている。当初予定した事業計画は適切に実施されている。 ・地震国日本で津波レーダーとして実運用されていない状況で、外国への普及を目指すには説得力がないので、性能、コスト等での優位性を明確に示していくことが不可欠である。 ・一定の範囲の波浪や津波を監視することは可能であり、インドネシアやその他の島嶼国への展開が期待される。全国レベルのシステム構築や、他の技術との比較、コスト見積りが不足しており、投資に見合ったリターンを得るにはさらなる検討が必要である。 ・今後の展開については、相手国次第ではありますが、我が国のプレゼンスの意味合いからも追加の検討を行ない、合理性を追求されてはと思います。 ・技術的な優位性、コスト面での評価等、より多面的にシステムを評価し、これが実際の津波検出や警報にどのように資するのかデータを蓄積してほしい。これが今後のビジネス展開の礎になるのではないだろうか。 ・災害対策や開発の優位性の確保の観点から、インドネシアにおける早期の実用化、全国的なレーダーの配備に向け、システムの有用性、コストの優位性等を含め国、企業からの積極的な働きかけが不可欠と考えられる。また、マレーシア、インドへの引き続きのアプローチやそれ以外の国への働きかけも推進すべき。 	3.1